

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)		コンビニ（店長）	お客様の様子	・オーバーストアの影響により客数は減少しているが、客単価の上昇で売上は前年をクリアしている。客の購買意欲が感じられる。以前は欲しい物を買わないで節約していたが、今は節約していても欲しいものは買うという意識へと変化している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・10月の新車受注は、前年比110%程度で推移している。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・9月発売の新型車効果で3か月前より良くなっているが、来店数が不安定になっており10月の受注数は微増にとどまり、長続きする見込みは薄い。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・円安で株価が戻ってきていることは、景気に対して多少イメージは良い。道後のアートイベント効果もあって、9月と10月の売上は伸びている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・60年に一度の丙申でうろう年の今年は、ご利益があると言われる「逆打ち」のお遍路さんが多い。お遍路の仕事をメインにしているが、現在は多忙で、来月も予約で埋まっている。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・総務省指導の影響はあるものの、買換え需要は堅調に推移している。
		通信会社（営業部長）	販売量の動き	・販売量は前々月・前月比10%増となった。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・集合住宅の一括契約が少し伸びてきている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・10月も暑い日が続き、秋物が全く売れない。週末は雨の日が多く、観光客はたくさん入ってきているようだが、地元客の買いが細いように思う。
		商店街（代表者）	それ以外	・着工を待つだけとなっていた再開発事業が白紙撤回され、反対派の新市長が提出した代替案は全協議委員から拒否されている。街づくりの基本思考が欠落した市の対応に混乱している。
		商店街（事務局長）	販売量の動き	・物販、飲食は軒並み低迷が続いている。体験型やコト消費に伸びしろはあるが、中小の小売店単独での取り組みやアイデアには限界がある。地域や商店街が一体となり、サービスやイベントなど継続的に取組む必要がある。まずは商店街に足を運んでもらう努力が求められている。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・外食で飲酒を控える傾向にあるのか、飲食店への売上が伸びない。家庭用は激安店で購入するようで、さっぱり売れない。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・周年事業で数字を上げているが、客の動きは変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・化粧品や食品は健闘しているが、高額品の動きが鈍化している。衣料品は、猛暑だった9月より回復傾向にあるが不十分。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・来店客数はほぼ前年並みだが、天候不順による野菜の高騰などで単価が上昇し、買い控えが発生している。
		スーパー（財務担当）	販売量の動き	・客数は微減が続いているが、値下げした商品の買上点数は順調に増加している。
		コンビニ（商品担当）	来客数の動き	・毎年10月に実施しているイベントの集客効果が無かったこと、そこで聞こえてくる様々な会話から、良くなっているとは感じられなかった。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・客数が前年を上回っているものの、気温や天候によるものが大きい。景気には直接関係ない。
		家電量販店（店員）	単価の動き	・低価格商品ばかりが売れて販売数が伸びていても、全体の売上は変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・自動車販売量が増える傾向は見られない。新型車効果や販売施策でどうにか売上をキープしているのが現状。
	その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	来客数の動き	・天候の影響で一時鈍っていた客足が元に戻っているが、景気が良くなっているとは言えない。	
	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・宿泊は堅調に推移している。料理部門では来客数が若干増えているものの単価は下落傾向にあり、全体ではあまり変わらない。	

	旅行代理店（営業部長）	来客数の動き	・台風など天候が非常に不安定で、客足は減少傾向にある。
	通信会社（社員）	販売量の動き	・総務省の指導等により販売方法の見直しが行われ、前年に比べると販売量は低調に推移している。
	通信会社（支店長）	お客様の様子	・現時点で動きは感じられないが、年末商戦に向けて動向を注視している。
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・来客数は増えているものの、前年と比べて中盤と後半の伸びが小さく、全体では若干悪くなってきている。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・忙しい日もあれば暇な日もある。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・来場者数は少ないままだが、受注数は増えてきている。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数が前年を下回っており、3か月前と比較しても前年比の減少率が大きくなっている。顧客の動きも鈍く感じられ、客単価も多少マイナスになっている。
	一般小売店〔生花〕（経営者）	それ以外	・仕入れ価格の高騰、市場の入荷量減少、客単価の減少で動きが悪かった。周辺の居酒屋など5～6軒が相次いで閉店し、人通りも減少した。
	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭、外商ともに売上は前年を割り込んでいるが、外商の大口売上は前年並みにとどまっている。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・10月上旬はそこそこ良かったが、気温が高めで雨も多かったため、中旬以降は平日はかなり厳しく、週末土日の数字ではばん回できなかった。
	衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・昨年はプレミアム付商品券が売上に貢献したが、今年の売上は大きく下落している。天候不順も影響し、非常に厳しい推移をしている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・例年、夏の行楽地及び帰省での出金が多くなった分のしわ寄せが10月に来るため、タクシー業界はあまり良くない。
	競艇場（職員）	販売量の動き	・10月の売上は前月比5%減、3か月前比10%減、前年比34%減となった。売上が伸びなかったのは、本場開催日数が直近月や前年同月と比べて一週間以上少なかったことによる。また、台風の影響も大きい。
	×	スーパー（店長）	・販売促進策を講じ、低価格商品を多数投入しても買上点数の増加がみられない。景気がそこまで冷え込んでいる。
	×	コンビニ（店長）	・来客数の減少に歯止めが掛からない状況が続いている。競合店の出店の影響もあるが、それだけでもない消費の弱さを感じる。
	×	衣料品専門店（経営者）	・来客数、販売量など今まで商売をしてきたなかでかなり景気は悪い状態にある。とにかく来客数が極端に少ない。Web通販に力を入れている店舗だけが売上を維持できている。地方の街中の景気回復には今までと違った対策が必要かもしれない。
企業 動向 関連 (四国)	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上が前年より15%以上伸びており、利益は前年比5%増になると予測している。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・遅れていた自治体からの発注が出てきたことに加えて、国の仕事も前倒し発注されたことで、手持ち仕事量が増えている。
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・都市部の百貨店など、特に関東地区はインバウンド消費に陰りがあるようだが、関西地区、他地方でも元気のある中堅都市の百貨店は相変わらず好調である。全体的には前年比で少し良い程度である。
	木材木製品製造業	それ以外	・木造住宅プレカット工場の10月度受注状況は全国的に高水準になっているそうだが、ハウスメーカー、ビルダーの着工計画から推測すると、需要が底上げされているとは判断し難い。
	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・前月同様に、産業用機械向けの受注が不調。
	建設会社（経理担当）	受注量や販売量の動き	・販売量は増加したが、受注量は減少している。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・予想通りに受注できていない。
	輸送業（経営者）	取引先の様子	・大きく変わらないと感じる。

	輸送業（営業）	競争相手の様子	・運転手の給与引下げに伴う離職・転職により運転手不足に拍車がかかり、同業社間で引き抜き合戦に発展することも珍しくない。同業社間での転職で取扱貨物が異なる場合は、ミスマッチングとなって転職が成立しない事も多い。運転手不足は慢性化している。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・物量の増減がさほど感じられない。
	金融業（副支店長）	取引先の様子	・貸出金利は低下局面にあるが取引先顧客の新たな資金需要動向に大きな変化は見られず、積極的な設備投資案件も少なく、やや景気の停滞感が感じられた。
	農林水産業（職員）	取引先の様子	・青果物が不作で仕入れに苦労している。仕入れ値が実需への納め価格に十分転嫁できず、利益率が悪化している。
	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・国内需要は、復旧復興・防災減災・インフラ老朽化対策・民間建設投資等によりおおむね堅調に推移している。海外需要は地域ごとにばらつきはあるが、原油価格の影響や新興国経済の減速を受け、全体では減少している。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・太陽光発電事業を柱にしているが、案件が少なくなり、動きが非常に悪くなった。尻すぼみの状況になっている。
	電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・季節要因と得意先の在庫調整等要因を補正すれば、景況感に大きな変動はみられない。一部のドル建て販売において為替の悪影響が生じているものの、ドル建ての仕入との相殺を考慮すると、影響は限定的である。
	公認会計士	取引先の様子	・決算・試算表等をみると、売上が前年比マイナスになっている企業が増えている。なかでも小売業、タクシー等の運送業が特にマイナスになっており、景気はだんだん悪くなっているのではと心配している。
	x	-	-
雇用 関連 (四国)			
	人材派遣会社（営業）	採用者数の動き	・慢性的な人材不足が続く中、各企業では常用雇用採用の枠を拡大して、中長期経営における人材育成、採用計画を実施している。若年層の常用雇用が増えると経済が活性化するが、経費の効率化を問われる。
	職業安定所（職員）	それ以外	・9月の有効求人倍率が1.34倍で、5月以降上昇が続いている。
	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・大型店出店など求人が増加しており、求職者の減少で時給がアップしているが、求職者のミスマッチも増え、就労に繋がらないケースもある。景気は現状維持状態が続いている。
	人材派遣会社（営業担当）	雇用形態の様子	・紹介予定派遣の依頼件数が増えるなどの動きはない。
	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・県内企業の採用難が続いている。特に中途採用では、採用が難しい職種・業種が多く、横ばいの状態。
	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・正社員の採用数には変動が無い。
	民間職業紹介機関（所長）	周辺企業の様子	・多くの経営者が閉塞感を感じており、打開策を見出せないでいる。
	学校〔大学〕（就職担当）	周辺企業の様子	・現時点の求人は順調であるが、景気の動向とは関係なく、単に人手不足の影響だと考えられる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新聞広告などの受注が、例年より減少傾向にある。
	x	-	-